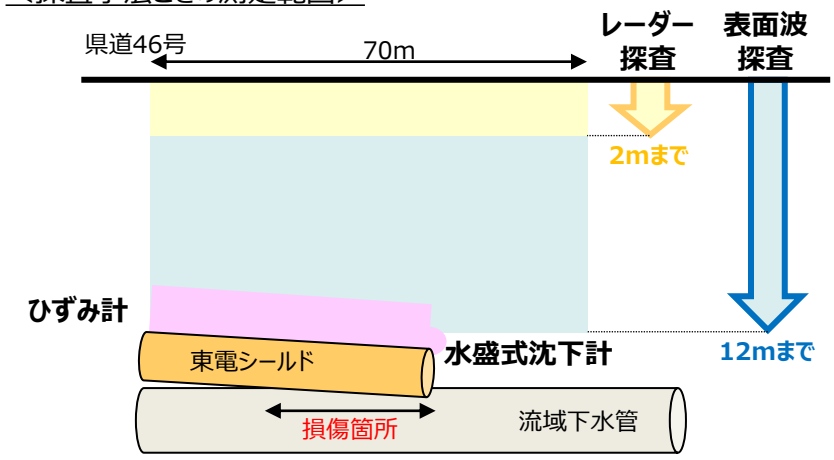
モニタリング調査方法

東京電力パワーグリッド株式会社
2026年6月25日 更新

項目		確認方法	頻度
路面変位測量		損傷した流域下水管上部の道路28箇所に観測地点を設け、測量により道路面の高さを計測し、路面が沈下していないか2時間毎に観測中	1回/2時間
地下水位		損傷した流域下水管付近の5箇所に観測地点を設け、地下水位の高さを計測し、地下水が変動していないか2時間毎に観測中	1回/2時間
路面下空洞調査	レーダー探査	地中に電磁波を放射し、反射波を解析することにより地中の空洞の有無を調査する手法 調査範囲：地表面から深さ約2mまで ※降雨等で路面が濡れている場合、実施できません 	1回/1月
	表面波探査	路面をハンマーで打撃し、地盤に発生する衝撃の周波数により空洞につながる地盤の緩みの有無を調査する手法 調査範囲：地表面から深さ約12mまで	1回/1月
	水盛式沈下計	東電シールドの先端部（マシン部）に水盛式沈下計を取り付け、東電シールドの鉛直変位の有無を調査する手法	1回/1分
	ひずみ計	東電シールド内の円周方向にひずみ計を取り付け、空洞につながる地盤の変動を最も近くで調査する手法	1回/1分
	<探査手法ごとの測定範囲> 		
下水管内流量調査		損傷した流域下水管の上流側マンホールと下流側マンホールの内部に流量計を設置し、異常な流量変動が発生していないことを確認	常時（1分ごと） ※データ回収は1回/1月
下水管内部カメラ点検		流域下水管内の写真や動画を撮影し内部状況を確認 ※常設カメラと定点撮影にて確認	常設カメラは常時 定点撮影は1回/1月

©TEPCO Power Grid, Inc. All Rights Reserved.
無断複製・転載はご遠慮ください 東京電力パワーグリッド株式会社